

飯田市 地方卸売市場あり方検討業務 実施概要（飯田市商業観光課 委託事業）

1. 業務の目的

飯田市地方卸売市場は建築から50余年が経過し、施設や設備の老朽化が進んでいる。また、消費者ニーズの多様化や社会構造の変化等により、公設市場としてのあり方が問われ始めている。本業務では、市場を取り巻く環境や本市場の現状等についてアンケート調査を行い、本市場の今後のあり方についてとりまとめることを目的とする。

2. 調査結果

買受人向けアンケート結果まとめ

- ・回答者の**65%が小売店**を営んでおり、小売事業者が直接買い付けに来るケースが多いことがわかる。そのため、**少量買いができない品目がある**ことに対する不満の意見も挙がっている。
- ・将来的に売上高の増加を見込む事業者は17%に留まる一方、減少見込みが45%であり、**半数近くの事業者は縮小傾向**であるといえる。
- ・仕入方法としては、回答者の59%が「**本市場からの仕入**」が最も多いと回答しており、地域にとって本市場の重要性が高いことがわかる。
- ・仕入方法の選択理由としては、**輸送距離や時間の短さ**が最も重視されている。
- ・仕入れた商品の販売先地域は、飯田下伊那地域が68%を占めており地産地消につながっている。
- ・**価格形成力・情報発信力**には不満を持つ買受人が多く、**集荷力**についても不満と回答した割合が高い。
- ・本市場から商品を仕入れする意義としては「**公設であるという安心感**」「**安定的な販路としての期待があるため**」が多く、安心・安定が重視されている。
- ・本市場が抱える課題としては、「**産地の生産力低下や大型化による集荷力低下**」が特に大きな課題として認識されている。
- ・当市場が目指すべき将来像としては**足元商圏におけるシェア確保**を重視する買受人が多い。
- ・**担当者の人柄や古くからの付き合い**に対する評価が高い一方で、生産者も含めた後継者不足や少子高齢化に対する懸念の声も聞かれる。
- ・今後も**地域の市場として存続を望む**意見が多く挙がっている。

生産者向けアンケート結果まとめ

- ・市場流通について、年間出荷額が最も多いのは「**当市場への出荷**」と回答した生産者が33名で最も多かった。市場への出荷の優先順位が高いことがわかる。
- ・販売方法の選択理由としては、**まとまって多くの量を捌けること**が特に優先されている。
- ・**市場の立地、品質衛生管理、集荷力**については生産者からの満足度が高い。一方で**価格形成力・情報発信力**には不満を持つ生産者が多い。
- ・当市場へ産品を出荷する理由としては「**安定的な販路としての期待があるため**」が最も多く挙げられ、僅差で「公設であるという安心感」が続いた。
- ・当市場が目指すべき将来像としては**商圏の拡大**を望む生産者が多い。
- ・昨今の価格高騰に対し、**手数料等を維持していること**は評価されている一方で、**売価への反映**に対しては改善要望も挙がっている。

本市場の今後のあり方

◆ 市場機能

公設として開設した飯田市地方卸売市場は、開設時の目的（「生鮮食品等を消費者へ円滑かつ安定的に供給する」「生鮮食品等の取引の適正化」）及び機能を果たしてきている。大規模小売店舗の進出や物流の変化など、市場を取り巻く社会状況は変化してきているが、買受人及び生産者へのアンケート調査などからも、飯田下伊那地域の食を支える重要性が再確認され、地域にとって市場機能は必要だと考えられる。

◆ 施設整備

建設から50年余りが経過し、施設や設備が老朽化してきている。アンケート調査からは物流の効率化やコールドチェーンへの要望が比較的多く出されている。市場機能を維持するための施設整備と共に、社会のニーズに合った施設整備が求められる。

◆ 運営体制

買受人及び生産者へのアンケート調査から、本市場の利用理由では立地や信頼関係が重視され、評価では立地や品質衛生管理の満足度が高いことが分かった。また、本市場を利用する意義として「公設であるという安心感」が重視されている。その一方で、アンケートで示された目指すべき将来像に向けては、民設民営市場による柔軟な発想や取り組みが効果的と考えられる。

以上のことから、公設でなくとも、現在地で市場機能が維持されれば、市場設立の目的であった「生鮮食品等を消費者へ円滑かつ安定的に供給する」視点での影響は少ないと思われる反面、安心感の担保が課題となる。

地域の食を守るために必要な市場機能を踏まえ、施設整備の進め方を検討しつつ、最善の運営体制として民設民営化を視野に、更に市場事業者と市で協議を深める必要がある。